インフルエンザサーベイランスとその読み方

社会福祉法人恩賜財団済生会大阪府済生会中津病院臨床教育部*，同 感染管理室**
安井　良則

KEY WORDS
●インフルエンザサーベイランス
●感染症発生動向調査
●インフルエンザ様疾患発生報告
●薬局サーベイランス

はじめに

インフルエンザは，北半球の国々で毎年冬季を中心とした大きな流行がみられており，日本でも多数の罹患者が発生している。感染症発生動向調査によれば，2009年の新型インフルエンザの発生以降の各流行シーズンにおいても，インフルエンザ発症による推計受診患者数は人口の10％を上回っている。それに伴って高齢者の超過死亡，インフルエンザ脳症に代表される乳幼児における重篤な合併症の症例も認められている。インフルエンザの流行の中心は学校や保育施設などの小児の集団生活施設であり，そこから家庭などを経由して地域全体に広がっている場合が多いと推定される[1)2)]。一方，病院や特別養護老人ホームや老人保健施設などの高齢者の集団生活施設での集団発生では，しばしば重症例や死亡例がみられることも珍しくない[3)4)]。

日本では，これらの事象が毎年12月から翌年の３月までの４ヵ月間にほぼ集中的に発生し，この期間中に地域社会や医療機関に与えるインパクトは大きく，メディアでも繰り返し取り上げられている。

本稿では，このインフルエンザの流行を観察する指標としての患者発生サーベイランスについて解説するものである。最初に厚生労働省が実施して国立感染症研究所が解析を行っている感染症発生動向調査[5)]について記述し，次いでインフルエンザ様疾患発生報告（学校サーベイランス）について，昭和48年に発出された「インフルエンザの防疫体制について」（厚生省公衆衛生局保健情報課長通知）に基づいて実施されているインフルエンザ様疾患発生報告（学校欠席者数：学校サーベイランス）[6)]，そして現在全国で１万以上の処方箋薬局が参加している薬局サーベイランスシステム[7)]についても

The influenza surveillance in Japan and interpretation of it.
Yoshinori Yasui（部長*兼室長**）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.